

令和7年7月2日

◆鈴木ひでし委員

私からは2件、このさがみ産業ロボット特区にかかったロボットについて、ちょっと聞かせてください。

一つは、いろんなものを商品化しているけれども、そもそもがロボット化したというターゲットというのはどこなの。

◎産業振興課長

さがみロボット産業特区で取り組んでいるロボットの関係ですけれども、こちらのとおり、生活支援ロボットでいうと、産業ロボットを除いた生活支援ロボット全般ということでございますけれども、特に最近取り組んでいることといたしましては、令和6年度からは、例えば介護支援の関係のロボットですとか、そういったことを取り組んでいるところでございます。

◆鈴木ひでし委員

いや、そうじゃなくて、私が聞いているのは、商品化したロボットが七十幾つあるじゃない。これはやれ火山だ、またマッスルだとかいろんなものが出てきて、今度ドローンも、深海用水中ドローンとか、幅広いものを商品化しているよね。何をターゲットにしているのか分からないんだよ。あなた方は商品化することだけが目標でやっているのかね。だって、全部ばらばらだから、何か見ていると。例えば、殺菌灯搭載ロボットとか、一体何がしたいのか全然分からないんだけど、見ていて。十何年前から言っているんだけど、相も変わらず同じことをやっているなと思って。

まあいいや、その中で、この2ページ目、これをちょっと見ていて、この生活支援ロボットの導入施設と、これは生活支援ロボットの何を入れたんですか、200か所とかさ、目標値、実績値が250とは、何を入れたの。

◎産業振興課長

KPIの資料の5番目の生活支援ロボットの導入施設の関係でよろしいでしょうか。

委員御指摘のとおり、様々な分野の生活支援ロボットが入っておるところですけれども、特にこの6年度で多かったのは、やはり令和6年度から取り組んでおります介護ロボットの実用化促進事業で入っているような介護関係のロボットが多くなっているかと存じます。

◆鈴木ひでし委員

だから、どんなロボットかと聞いているのよ。そんな介護ロボットはいっぱいひったくらないでさ、どういうロボットなのと。

◎産業振興課長

一例で申し上げますと、例えば、介護施設で入っている方の寝ていたりとか起きたりする状況とかやるような、a a m s というそういうセンサー系のロボットですとかでございます。

◆鈴木ひでし委員

そうしたらば、この中の何番なの、この商品化したロボットの中の。七十幾つあるじゃない。

◎産業振興課長

例えば、今の例でいきまして、a a m s でございますと 57 番でございます。

◆鈴木ひでし委員

57 番、57 は見守り介護ロボットじゃない。見守り介護ロボットというのは、リフトと言ったじゃない。アシスト的なものでしょう、人を起こすんじゃないの。

◎産業振興課長

寝ている方が、例えば、寝ている状態ですとか、あるいは起きてトイレに行かれるとか、そういった状況をセンサーで把握するようなロボットでございます、それによって介助者の方が、例えば、夜中の見回りとかを回数を減らしたりできるので。

◆鈴木ひでし委員

それがどれくらい入っているの、これ。この施設の中に大体、大体でいいですよ。1 台入ったのが 1 施設なの。

◎産業振興課長

この 5 番目の K P I の指標につきましては、新たに入った施設数という形でございますので、新規に入ったもので 1 カウントしております。

◆鈴木ひでし委員

では、そうしたら、大したことはないよね、具体的に入っている数というのは。ちなみに、ここに 75 あるロボットのうち、全部これ、既存の企業として、みんなそれなりの黒を出して成長している会社なんですか、これは。

◎産業振興課長

特区の取組で様々関わりを持たせていただいておりますが、中にはかなりの数を商品化、販売している企業さんもいらっしゃいます。

◆鈴木ひでし委員

そうじゃなくてさ、この中の 75 のうちに、全部ベンチャーもひっくるめて企

業なんだろうけれども、これまでみんなしっかり黒を出して営業成績はいいんですかと、中にはやめた会社とかあるんじゃないのという、その質問。

◎産業振興課長

様々企業さんはあると思いますけれども、販売停止しているものもございませぬ。ですけれども、一方で数を出している企業さんもいらっしゃいます。

◆鈴木ひでし委員

だからさ、あなた方がやっていることというのは、私、毎回思うんだけど、私、今回代表質問で、公知の事実と社会実装と言ったけれども、実際なされていないんだよ、こういうことをやっているけれども、あなた方のこの施策というのはさ。実証実験ばかりで実装まで、だって、あなたが今先ほど言った見守りロボットについてだって、私逆にこういうようなものだったら別に神奈川県がやっていないところだって入れている病院なんかいっぱいある、別にあなた方がこれをやらなくても、自費でもってやっていらっしゃるところもある。そういう中で、私がここで言いたいのは、例えば、この62番目の車椅子ロボット、何て読むのか知らないけれどもさ、ムーボットオフィスとかというあるじゃない、これは実績を、ホームページを見たんだけど、神奈川県の、要するにロボットの支援については一番最後のほうに出てきていて、何も神奈川県でどうのこうのしたなんて書いていないんだよ。あなた見たことある、これ。

◎産業振興課長

このムーボットオフィスでございませぬけれども、昨年度、私ども関わらせていただいて、昨年7月に、知事のほうで会見で御紹介しているところでございませぬ。

◆鈴木ひでし委員

だから、そんな話はしていない、そんなのは下に出ていたよ、知事の会見の内容は。それはあなたが購入するときにはこういうお金が出ますよと、一番最後に出てはいるけれども、あなた方が一生懸命さがみ産業ロボット特区だ、ああだこうだと言っているようなことは、どこにもホームページには書いていないというのよ。要するに、神奈川県が関わってこういうような、例えば、商品というようなものをあなた方が認めて、こういうふうにしていきますとか何とかとは一つも書いていないというの、ホームページの中には。それであなた方は一体何をやっているんだろうと、この中でもっていろいろ出てきているけれどもさ。もちろん、導入に対しての補助というようなものについて、こういうことをやると補助金をもらえますよというような使い方のユーザーに対する情報はあっても、あなた方がここに関わったと、神奈川県がやってこういうふうになりましたというのはどこにも書いていないと、ホームページには、私が見てね。

それで、私なんか、逆に、去年の10月かな、つくばのほうに行くと、あるQo1oというロボットを見ました。ところが、今あなた方が今度やっている、何て読むんだか知らないけれども、このロボットは、椅子がそのまま立ち上がるよ

うになっているけれども、このQo1oというロボットというのは、自分でもって前に引っ張ると、下半身が駄目な人が立てるんだよ。立って高いところ取ったりするんだよ。あなた方が一体これをやっている、商品化したロボットとか何とかああでもないこうでもないと言うけれども、これは十何年間言い続けているけれども、一体この社会実装に向けて何を基準にして、何をやりたいのかというのが全然見えないんだよ、私から見ると。何年も何年も同じようなこれを行いましたあれをやりましたと、紙だけで出ているもので、いつもこうやって数字でさ、中身を聞けば、それこそ1台入っています、1施設だって、例のごときやるわけだよ。いつまでやっているんだと、こんなことをあなた方が、もう十何年だよ、たしか私、十三、四年前だよ、ロボット普及推進センターと私、提言してやっていたのは。もういい加減にきなさいよと、あなた方さ。これ一つ、まず一つ苦言を呈しておきますよ。

その中で、私、次のこれは先ほどからずっと聞いていてちょっと納得いかなかったの、この何だ、支援のセレクト神奈川NEXTというやつさ、これさ、見えていて地域別の立地支援件数が161件と書いてあるけれども、この中の大小はどうなっているんだ。大企業がどれくらいで、中小企業は何社くらいあるの、これ。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

161件のセレクト神奈川NEXTによる立地支援のうち、大企業が39件、約4分の1ですね。残りの中小企業が122件となっております。

◆鈴木ひでし委員

その中でも特に3政令市はどうなっている。93という、横浜、川崎、相模原だよ。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

160件のうち……。

◆鈴木ひでし委員

いや、違う、違う。93件。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

失礼しました。

◆鈴木ひでし委員

53、17、23。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

はい。のうち、政令市の数……。

◆鈴木ひでし委員

大企業と中小企業の数。横浜なら横浜、川崎なら川崎、相模原で、大企業と中小企業は何社になっているの。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

恐れ入ります、政令市における横浜の53のうちの大企業、中小企業のバランスは、今手元にはございません。申し訳ありません。ただ、一般的なこの大企業、中小企業との全県の比率とはそれほど差がないものと受け止めています。

◆鈴木ひでし委員

突然の質問で申し訳ない。私ここを見ていて、あなたが今言ったように、大手は多分、こんな言い方はあれだけれども、これだけ相当の50億近いお金が出てきて要するにやっているわけだよ。中小企業の中で、失礼ですけれども、今まで過去10年近くたっているわけだけれども、この中でもって自主的に倒産した企業はないの。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

かつてインベスト神奈川という時代がございました。その際に、交付決定、認定をさせていただいた企業で、取引先がうまく予定どおりいかなかったと、そんなことがあって破産というふうになった企業が1社ございます。

◆鈴木ひでし委員

私は、今聞いていて、あなた方がこうやっていけいけでやろうが結構だけれども、これからトランプ関税もひっくるめた形で、日銀短観なんかを見ても大変厳しい時代が来るよね、これから。これさ、具体的にこの中でもって、あなたが今言っていたこの161社の中で、具体的に黒字でもってちゃんとやっている会社は、全部なの。

◎企業誘致・国際ビジネス課長

この企業誘致施策で誘致、認定、補助金交付させていただく条件としまして、10年間はその事業を続けていただくところがあって、私どもも企業から申請の相談をいただいた際には、財務の状況を確認させていただいておりまして、財務状況が赤字であったりとか、10年の操業がなかなか難しいと考えられる場合には、この申請のほうをなかなか受付が難しいと、10年間の間に撤退とかになっちゃったら、返還とかそういうことになるのでというのは説明させていただいておりまして、基本的にはこの161件の企業の皆さんは、黒字でもって成長されるということで事業を認定させていただいて、事業をやっているというふうな認識でおります。

◆鈴木ひでし委員

認識でおりますというけれども、現実はどうなんだよ。認識は認識でいいよ。私が心配しているのは、これだけ多額のお金を出しておいて、万が一決算等は

変厳しいと、これは赤なら赤になったとしたらば、法人税とかは入ってこないだろう。そういうような観点からの、要するに、きちっとしたことを県民に分かるように出さないよ、こういうの。そんなことを書いていても、私たちは分からないよ、あなた方は分かるだろうけれども。県内の、例えば発注がこういうのがあるのも結構。だけれども、具体的にどのような利益を生んでこれだけの投資をしたんだと、それに対して、こういうようなきちっとした法人税等が入ってこのようになっていきますよという決算があつてしかるべきなのに、いつまでたつてもそういうことが出てこないんだよ、ここのところにさ。こうやりました、県内は何億でもつてやりましたみたいなのが出ていて、これを私一番心配しています。これは申し訳ないけれども、これは、知事は何期もやるんだか私知らないけれども、いざこれが総括となつていったときに中身はどうなったんだというようなことにならないのかと、先ほどのトランプ関税もひっくりめた形で、これがどうしても景気の先行きというのは相当厳しいとなつていったときに、あなた方はそのときにもう既に貸付けしているわけだよ。さっきあなたが認識して、認識の問題じゃない、具体的な数字で出せと、そういうものを県民に。そうしなかったらみんなこれは分からないからというようなところで、どうですか。

#### ◎企業誘致・国際ビジネス課長

この報告資料の19ページでございますけれども、19ページの下段にインベスト神奈川からセレクト神奈川NEXTまでの認定事業所数、左から2列目にございまして、括弧書きでうち撤退数というのを、そういった状況になつたものを報告させていただいております、先ほど破産と申し上げたものは、インベスト神奈川の2件のうちの1社が破産というケースでございまして、セレクト神奈川NEXTで161件、事業を続けていただいて県内経済にしっかりと貢献していただく、そうしたところを促してまいりますとともに、仮に経済状況によって破産とかそうしたことになつた場合には、報告させていただくとともに、補助金の返還とかそうした手続を取らせていただくこととなります。

#### ◆鈴木ひでし委員

私たち議会はこれでいいかもしれないけれども、県民に対してより分かりやすいこういうものを出さないと、私も今見ましたよ、この19ページ、何かを言っていない、ないと言つたのは、県民の方々にとって、多額の税金が使われて、それがどのようになっているのかというようなことを知らなくていいはずないじゃん。これはきっと県民の方が知つたらば、相当なショックが出てくると思うよ、ある意味で。ショックというのは、やったことに対するショックじゃないよ、これから要するにどんどん経済的な問題が出てきたりなんかしたら、ああそういうことをしていたのかとなることを私はすごく心配しているので、先に言っていくということで。

その中で、あともう一つ、今から何年前かな、産労のときにも言ったんだけど、この県西と三浦のこの9件とか11件はあるじゃん、何でこんな政令市のほうにこれだけのお金がつぎ込まれていて、あなた方の施策としてやるんだつたら、これは県西とか三浦、横須賀にだって、あなた方がアイデアを出してしつ

かりとしたような流れをつくるべきだというのを、今から4、5年前だな、私言っていたのは、相も変わらず変わらないよね、これを見ている。私ちょっと見ていてすごく気になったことがあったんだけど、この条件の中で、この横須賀、三浦とか県西地域においては、対象業種は製造業、また飲食、食料、生産とか業務用機器とか何とかと書いてあるんだよ。私の認識が違っていたらごめんね、そうだったら、何でこの他のところの要するに認定条件と違うんだよ。だって、私なんかからすると、逆にそうだからこそ半導体もひっくるめた、オンラインの時代が来ているんだから、離れた要するに真鶴だろうがどこだろうが、そういうようなところとしっかり対応した形でもって、あなた方がそういうリードオフマンとしてやらなきゃならないんじゃないのか、これ。

#### ◎企業誘致・国際ビジネス課長

恐れ入ります、ちょっと説明が足りていなくて申し訳ありません。横須賀三浦地域と県西地域には、特別にプラスアルファの対象産業というのがあって、半導体ですとかそういったものも全県共通の対象ではございます。

#### ◆鈴木ひでし委員

それは私の認識がいけませんでした。私はこれを見ていて、では、逆に私は何でそうであるならばこれだけの幅広にしてくれている中で、何でこんな県西地域なんていうようなところ、まだいっぱい土地はあり、やっぱりそれなりの人物はいっぱいいらっしゃいますよ、何で9なんだと。それを思えば、これは何年間もかけて9なんだよ。そういう流れを見ていったときに、何をあなた方が足りないのかというようなことを、今から4、5年前ぐらいに私から言っているのに、いまだに変わっていない、この姿をみてさ。私、正直に言ってショックだったのよ、この数字を見てさ。私は県西に住んでいるわけじゃないけれども、そもそもが県としての決着をつけなきゃならないのは、県西とかこういう三浦とか横須賀というようなところに、もちろん湘南、県央入っていますよ、だけれども、そこにはそれなりの大きな企業が入っているけれども、やっぱりもう一度県西、それでまた横須賀、三浦というところに対して、どのような要するにポテンシャルがあって、それをどのようにしていくのかというようなことに対する方向性をあなた方が示してあげなかったら、来てください、ウエルカムですよというわけにはいかないじゃん、こういうようなものでやるから来てくださいという、あなた方の答弁を聞いていると、何かそういうお膳立てしたところでどうぞ来てくださいというようなものに見えて、これからこういうふうにやりますから、そのために皆様方は投資して入れてくださいというふうに全然見えなかったのよ、そうしなきゃ、これからベンチャーにしてもいろんな方向性にしても時代がついていかないと、そう思ったわけです。

#### ◎企業誘致・国際ビジネス課長

横須賀・三浦・県西地域ですね。それぞれセレクト神奈川100のときから提案して、セレクト神奈川NEXTで食料品とかは両地域限定で追加して、その分増加している傾向はあるものの、委員おっしゃるとおり、まだほかの地域と比べて

少ないという現状があるのは承知しております。そうした中で、例えば、県西地域にしても、規模の大きな用地ですね、例えば、南足柄の産業集積ビレッジとか、それも一つの1件という誘致に至った場合に、ちょっと例えば、アサヒビールさんの跡地に入っていたいただいた大きな企業も来ましたけれども、それも1件でございまして、私どもも横須賀三浦地域、県西地域、特に市町村は本当に熱心にやられていると認識していますので、やっぱりタッグを組んで、できるだけ地域に大きな影響を与えるような企業、しかも用地を市町村が手がけているところに呼びたいと考えておって、そこに県の施策、食料品に限定した、両地域の限定のメニューも活用していただくなどして、積極的かつ企業のニーズに応じて、地域の実情、市町村の熱意もしっかりと捉まえて取り組んでいきたいと思っております。

◆鈴木ひでし委員

分かりました。よろしく申し上げます。